学習動機に関する志向調査

下田　健治[1]，名木田恵理子[2]，中西　啓子[3]
村中　　明[4]，内山　克良[5]，山口　恒夫[2]

Investigation of Entering Students' Patterns and Characteristics of Studying

Kenji SHIMODA[1], Eriko NAGITA[2], Keiko NAKANISHI[3],
Akira MURANAKA[4], Katsuyoshi UCHIYAMA[5] and Tsuneo YAMAGUCHI[2]

キーワード：学習動機，学習意欲，志向調査，実用志向，充実志向

概　　要

川崎医療短期大学の教育を適切に改善するための基礎資料を得ることを目的として，平成15年度入学生の学習動機に関する志向調査を行った．学習動機は，内容関与的動機である充実志向，訓練志向，実用志向と，内容分離的動機である関係志向，自尊志向，報酬志向の６種類に区分した．各志向につき６個の質問項目を設け，合計36項目の質問についてアンケート調査を行った．各志向における全学科の心理尺度の平均値は，高い順に実用志向3.88，充実志向3.45，訓練志向3.03，自尊志向2.80，報酬志向2.70，関係志向2.50であり，各学科とも，内容関与的動機の心理尺度が，内容分離的動機の心理尺度より高い値を示した．内容関与的動機の中でも，実用志向の平均値が高かったことは，教育上配慮しなければならない重要な特徴であると考えられた．学生の学習意欲を喚起し維持するには，学習動機に応じた教育指導方法が必要であり，その留意点について考察した．

1．はじめに

学生の成績が伸び悩む，あるいは成績が不良であるときよく言われるのが，「やる気がない」，「意欲がない」という言葉である．「やる気」，「学習意欲」は，心理学ではモチベーション（動機付け）とよばれ，これは学習だけでなく，さまざまな行動を方向付ける基本的な欲求のことを意味している．動機付けは学生にとっては学習行動の出発点となり，教師にとっては教授行動の原点となる基本的な問題である．学習し，知識や技能を得ることができれば，自分自身が有能だと確認でき自信がつくものである．しかし，そのような感覚をもてなければ，何のために学ぶのかという学習の意義を見つけることができず，やがてはやる気をなくしてしまうであろう．したがって学習を続けるには，自分は能力のある人間だということを認識していることが重要である．

学生個人がどのような学習動機を持って大学という教育機関に入学し，また入学生という集団の学習動機がいかなるものかを知ることは，今後の教育を適切なものにするためにきわめて重要である．なお，本調査は，FD 委員会の活動の一環として行ったものである．

2．調査方法

(1)　アンケート調査方法

アンケート調査の対象，調査期間，回収方法は前報（下田ら，2003ａ）[1]と同様である．なお，本稿でも，学科名の第一看護科を１N，第二看護科を２N，臨床検査科を MT，放射線技術科を RT，臨床工学科を ME，介護福祉科を CW と略名で表記することにする．

質問項目については，市川（1995，1998，2001）[2~4]の

（平成15年10月８日受理）
[1]川崎医療短期大学　臨床検査科，[2]川崎医療短期大学　一般教養，[3]川崎医療短期大学　第一看護科，[4]川崎医療短期大学　放射線技術科，[5]川崎医療短期大学　事務部教務課
[1]Department of Medical Technology, Kawasaki College of Allied Health Professions
[2]Department of General Education, Kawasaki College of Allied Health Professions
[3]The First of Department of Nursing, Kawasaki College of Allied Health Professions
[4]Department of Radiological Technology, Kawasaki College of Allied Health Professions
[5]Educational Affairs Section, School Office, Kawasaki College of Allied Health Professions

報告にしたがって，学習動機を「学習の功利性」と「学習内容の重要性」の２要因モデルから，充実志向（学習自体が楽しい），訓練志向（知力を鍛えるため），実用志向（仕事や生活に役立つ），関係志向（他者につられて），自尊志向（プライドや自尊心から），報酬志向（報酬を得る手段として）の６種類に分けた．充実，訓練，実用の３志向は，学習内容に関与した動機であり，まとめて内容関与的動機と呼ばれている．関係，自尊，報酬の３志向は，学習内容から離れた動機であり，まとめて内容分離的動機と呼ばれている．それぞれの志向の強さを見るための質問項目を６個ずつ設け，全体の質問項目を36項目とした．アンケートでは，ランダムな順序に呈示した質問項目に回答してもらった．回答のための選択肢は，「よく当てはまる」，「当てはまる」，「どちらともいえない」，「当てはまらない」，「まったく当てはまらない」の５段階方式にした．

(2)　学習方法の心理尺度の算出方法

学習動機を数量的に評価するために，市川（1995, 1998, 2001）[2~4]の方法にしたがって心理尺度を算出した．すなわち，質問事項の充実志向，訓練志向，実用志向，関係志向，自尊志向および報酬志向について，次の方法で心理尺度を求めた．各志向に関する６質問項目は，それぞれ５段階評価［５点（自分によくあてはまる）～１点（まったくあてはまらない）；他は分析結果参照］とし，その平均点を心理尺度の値とした．今回は，各学科ごとに集計し，さらに回答者数で割った平均点を出して，その志向の強さを比較した．なお，心理尺度の数値を学科間で比較するために，学科ごとに集計した数値を，回答した学生数で割って平均値を求めた．

一方，「よくあてはまる」および「あてはまる」と回答した数の合計数が，全回答数に占める割合を肯定的な回答率とし，「あてはまらない」および「まったく当てはまらない」と回答した数の合計数が，全回答数に占める割合を，否定的な回答率とした．

３．調査結果

(1)　学習動機に関する志向の心理尺度

１）各志向の全学科集計の平均値（表１）

全体的傾向として，内容分離的動機に比べると内容関与的動機の方が高値を示した．そのうち，実用志向が最も高く3.88，次いで充実志向3.45，訓練志向3.03であった．最も低かったのは，関係志向で2.50，次いで報酬志向2.70，自尊志向2.80であった．

２）各志向の学科別集計の平均値（表１）

① 実用志向：２Ｎが最も高く4.02，次いで１Ｎで3.95，CW で3.88であった．MT，RT，ME はそれぞれ3.78，3.79，3.81であった．

② 充実志向：２Ｎが最も高く3.67，次いで RT が3.51, ME は3.52であり，低かったのは CW が3.28, MT が3.39，１Ｎが3.42であった．

③ 訓練志向：最も高かったのは２Ｎの3.14で，次いで RT が3.12，低かったのは ME が2.96，MT が2.97で，心理尺度の最高，最低の差はわずかだった．

④ 報酬志向：最も高かったのは１Ｎの2.82で，次いで CW の2.74，MT の2.69であった．低かったのは ME の2.65, RT の2.58，２Ｎの2.59, RT の2.58であった．最高，最低の差は小さく，全学科の平均は2.70であった．

⑤ 自尊志向：最も高かったのは２Ｎの2.95で，次いで１Ｎの2.93であった．低かったのは MT の2.83, RT の2.75，ME の2.73，CW の2.61であった．

⑥ 関係志向が最も高かったのは１Ｎと CW の2.59，次いで２Ｎの2.50であった．低かったのは ME の2.38, MT の2.41，RT の2.45であった．

(2)　学習動機に関する各質問項目の回答結果

１）実用志向（図１）

質問事項Ａ．「学んだことを，将来の仕事に生かしたいから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが93.4％，２Ｎが92.8％，MT が92％，RT が82.6％，ME が88.6％，CW が84.8％で，全学科では80％以上であった．否定的な回答は，１Ｎが1.0％，２Ｎが1.7％，MT が1.5％，RT が1.9％，ME が3.2％，CW が3.4％であった．

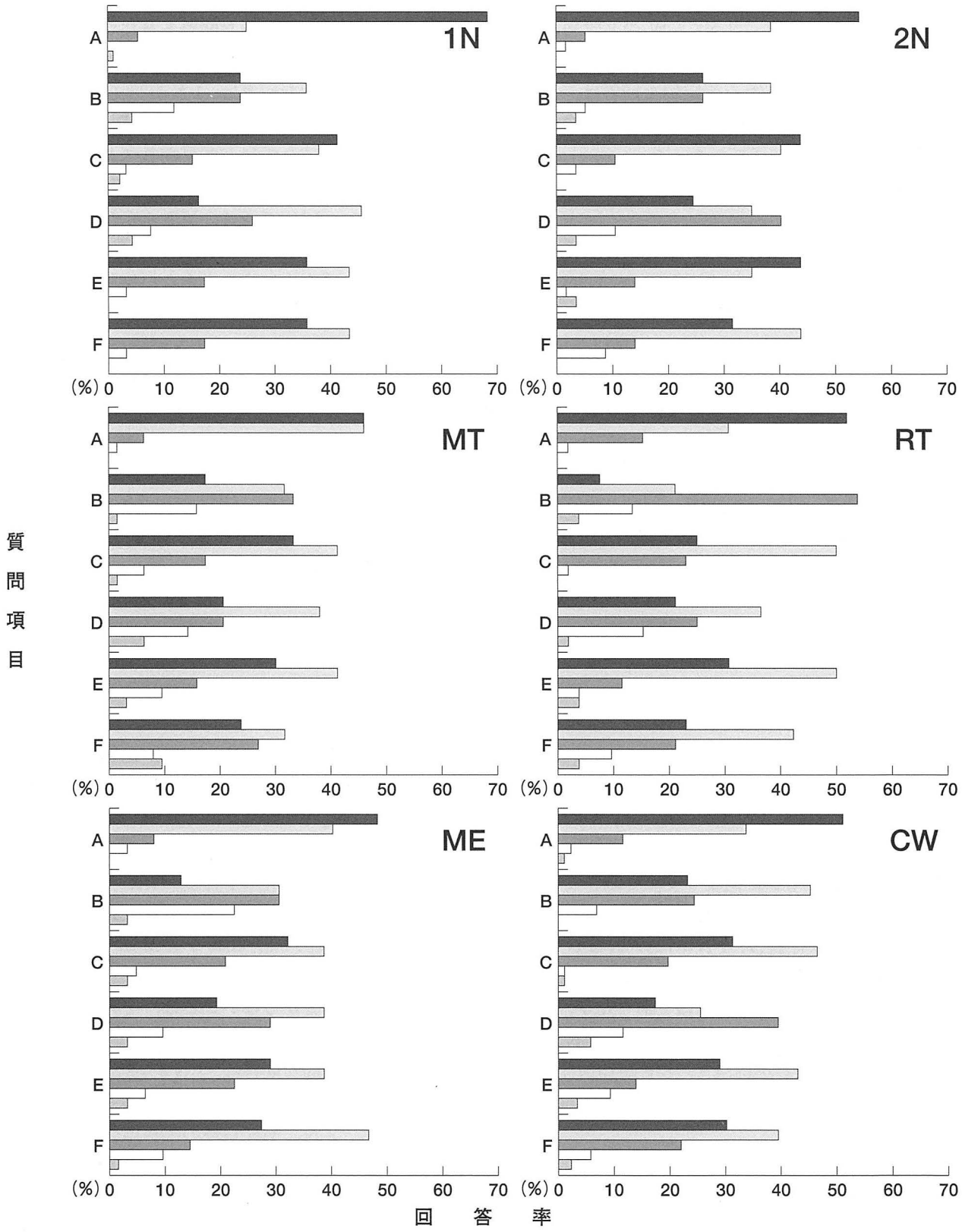
質問事項Ｂ．「勉強したことは，生活の場面で役に立つから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが59.7％，２Ｎが64.8

表１　学習動機に関する調査

学　科	内容関与的動機の心理尺度＊			内容分離的動機の心理尺度＊		
	実用志向	充実志向	訓練志向	報酬志向	自尊志向	関係志向
１Ｎ	3.95	3.42	3.01	2.82	2.93	2.59
２Ｎ	4.02	3.67	3.14	2.59	2.95	2.50
MT	3.78	3.39	2.97	2.69	2.83	2.41
RT	3.79	3.51	3.12	2.58	2.75	2.45
ME	3.81	3.52	2.96	2.65	2.73	2.38
CW	3.88	3.28	3.01	2.74	2.61	2.59
全体	3.88	3.45	3.03	2.70	2.80	2.50

＊心理尺度の平均値（調査方法参照）



〈質問項目〉A 「学んだことを，将来の仕事に生かしたいから」，B 「勉強したことは，生活の場面で役に立つから」，C 「勉強で得た知識は，いずれ仕事や生活の役に立つと思うから」，D 「知識や技能を使う喜びを味わいたいから」，E 「勉強しないと，将来仕事の上で困るから」，F 「仕事で必要になってからあわてて勉強したのでは，間に合わないから」.
〈回答の選択肢〉よく当てはまる■，当てはまる□，どちらともいえない■，当てはまらない□，まったく当てはまらない□.

図1　各学科における実用志向に関する調査結果

%，MTが49.1%，RTが28.7%，MEが43.5%，CWが68.5%であった．1N，2N，CWの3学科は約60%であったが，MT，RT，MEの3学科は低く，なかでもRTは有意に低かった．否定的な回答は，1Nが16.2%，2Nが8.7%，MTが17.3%，RTが17.2%，MEが25.7%，CWが6.9%であった．

質問事項C．「勉強で得た知識は，いずれ仕事や生活の役に立つと思うから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが79.3%，2Nが84.1%，MTが74.5%，RTが75%，MEが70.9%，CWが77.8%で，すべての学科で70%以上であった．否定的な回答は，1Nが5.3%，2Nが3.5%，MTが7.8%，RTが1.9%，MEが8.0%，CWが2.2%であった．

質問事項D．「知識や技能を使う喜びを味わいたいから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが61.9%，2Nが59.5%，MTが58.6%，RTが57.6%，MEが58%，CWが42.9%で，ほぼ全学科が60%前後であったが，CWは他の学科に比べるとやや低かった．否定的な回答は，1Nが11.9%，2Nが6.9%，MTが20.5%，RTが17.2%，MEが12.8%，CWが17.4%であった．

質問事項E．「勉強しないと，将来仕事の上で困るから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが79.2%，2Nが78.8%，MTが71.3%，RTが80.7%，MEが67.7%，CWが72%で，ほぼ全学科が70%以上であった．否定的な回答は，1Nが3.2%，2Nが5.2%，MTが12.6%，RTが7.6%，MEが9.6%，CWが12.7%であった．

質問事項F．「仕事で必要になってからあわてて勉強したのでは，間に合わないから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが72.7%，2Nが75.3%，MTが55.5%，RTが65.3%，MEが74.1%，CWが69.7%で，ほぼ全学科が70%前後であったが，MTはやや低いのが目立った．否定的な回答は，1Nが10.8%，2Nが8.7%，MTが17.4%，RTが13.4%，MEが11.2%，CWが8.1%であった．

2）充実志向（図2）

質問事項A．「新しいことを知りたいと思う気持ちから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが52.1%，2Nが63.1%，MTが60.2%，RTが57.6%，MEが61.2%，CWが52.2%で，ほぼ全学科が60%前後であった．否定的な回答は，1Nが18.4%，2Nが6.9%，MTが17.3%，RTが7.6%，MEが19.3%，CWが13.9%であった．

質問事項B．「いろいろな知識を身につけた人になりたいから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが83.6%，2Nが85.9%，MTが82.4%，RTが76.8%，MEが82.1%，CWが66.2%で，ほぼ全学科が80%前後であったが，この中でCWがやや低いのが目立った．否定的な回答は，1Nが5.3%，2Nが5.2%，MTが6.3%，RTが5.7%，MEが4.8%，CWが6.9%であった．

質問事項C．「すぐに役に立たないにしても，勉強が分かること自体が面白いから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが32.5%，2Nが47.3%，MTが45.9%，RTが57.6%，MEが49.9%，CWが37.1%で，ほとんどの学科が50%前後であったが，1N，CWはやや低い傾向があった．否定的な回答は，1Nが29.3%，2Nが21.0%，MTが28.5%，RTが17.3%，MEが14.4%，CWが25.5%であった．

質問事項D．「何かができるようになっていくことが，楽しいから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが68.4%，2Nが78.8%，MTが63.4%，RTが67.3%，MEが70.9%，CWが61.6%で，ほぼ全学科が60%以上であったが，他学科に比べると2Nはやや高いのが目立った．否定的な回答は，1Nが8.6%，2Nが1.7%，MTが12.6%，RTが3.8%，MEが4.8%，CWが12.8%であった．

質問事項E．「勉強しないと，充実感がないから」

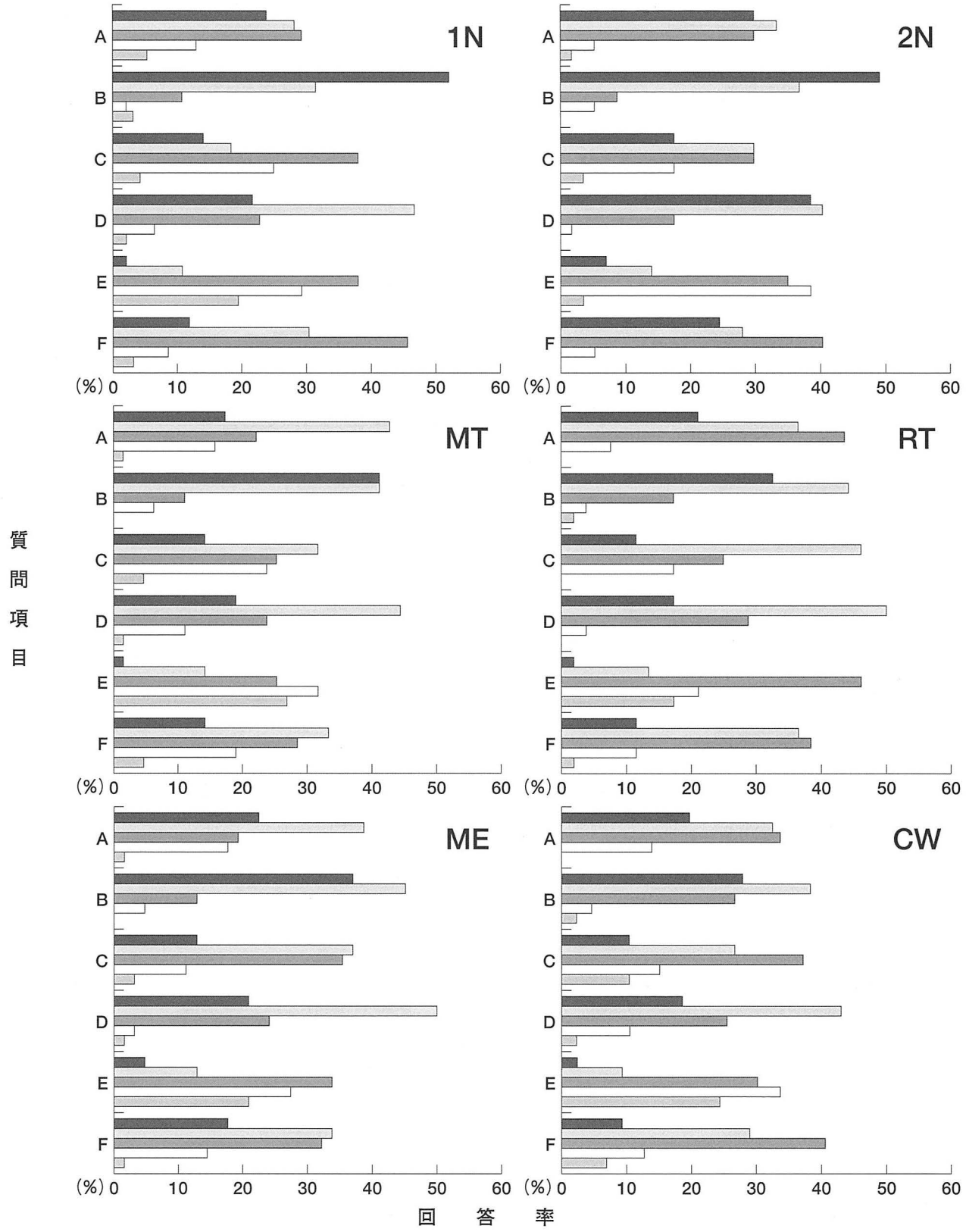
各学科の肯定的な回答は，1Nが12.9%，2Nが21%，MTが15.7%，RTが15.3%，MEが17.7%，CWが11.7%で，2N以外の学科は20%以下であった．否定的な回答は，1Nが48.8%，2Nが42.0%，MTが58.6%，RTが38.4%，MEが48.3%，CWが58.1%であった．

質問事項F．「分からないことは，そのままにしておきたくないから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが42.3%，2Nが52.5%，MTが47.5%，RTが48%，MEが51.5%，CWが38.3%で，2N，ME以外の学科は50%以下であったが，この中でもCWがやや低いのが目立った．否定的な回答は，1Nが11.8%，2Nが5.2%，MTが23.7%，RTが13.4%，MEが16.1%，CWが19.6%であった．

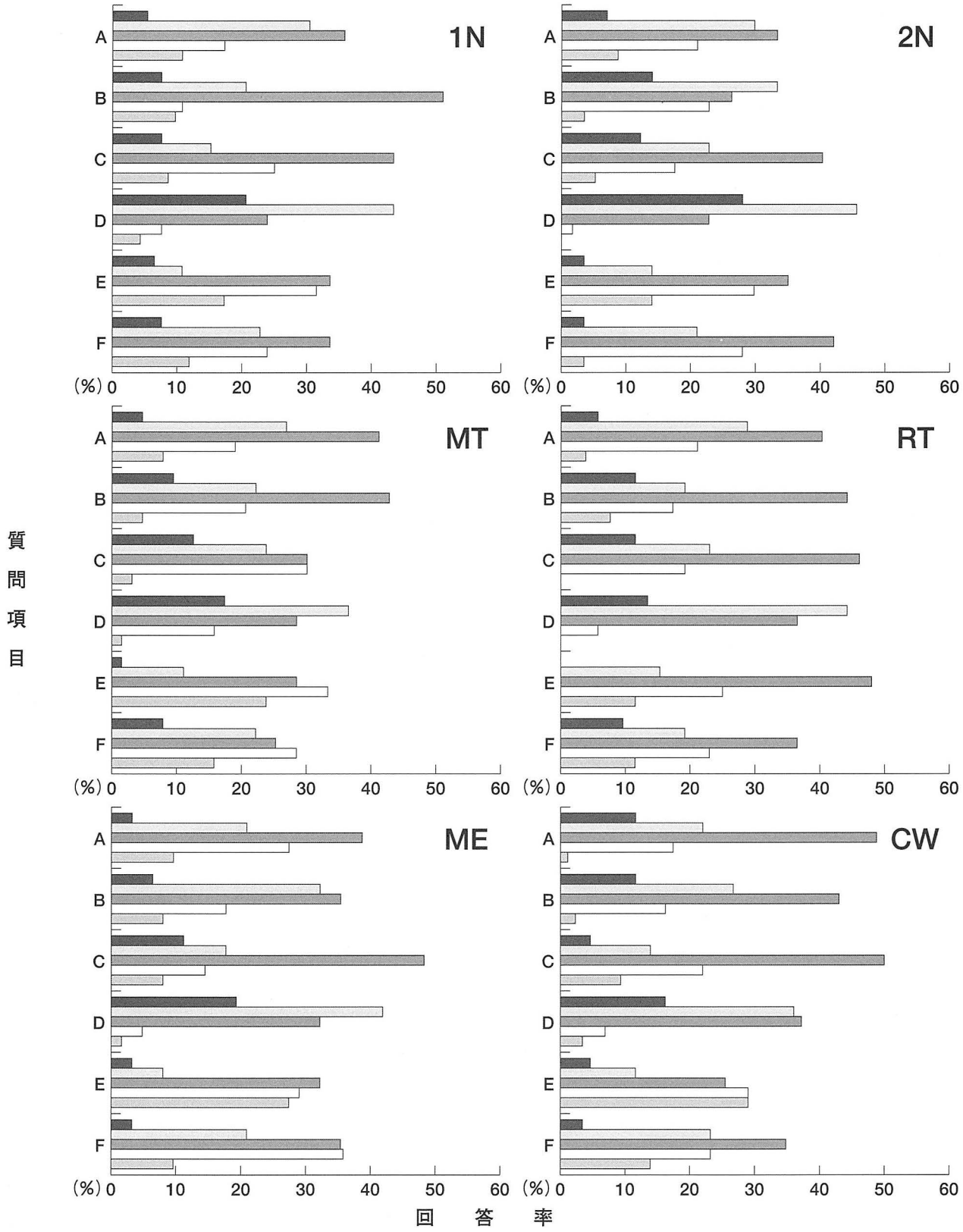
3）訓練志向（図3）

質問事項A．「勉強することは，頭の訓練になると思



〈質問項目〉A 「新しいことを知りたいと思う気持ちから」，B 「いろいろな知識を身につけた人になりたいから」，C 「すぐに役に立たないにしても，勉強が分かること自体が面白いから」，D 「何かができるようになっていくことが，楽しいから」，E 「勉強しないと，充実感がないから」，F 「分からないことは，そのままにしておきたくないから」.
〈回答の選択肢〉よく当てはまる■，当てはまる□，どちらともいえない■，当てはまらない□，まったく当てはまらない□.

図2　各学科における充実志向に関する調査結果



〈質問項目〉A 「勉強することは，頭の訓練になると思うから」，B 「学習の仕方を身につけるため」，C 「合理的な考え方ができるようになるため」，D 「いろいろな面から，物事が考えられるようになるため」，E 「勉強しないと，筋道だった考え方ができなくなるから」，F 「勉強しないと，頭の働きがおとろえてしまうから」.
〈回答の選択肢〉よく当てはまる■，当てはまる□，どちらともいえない■，当てはまらない□，まったく当てはまらない□.

図3　各学科における訓練志向に関する調査結果

うから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが35.8%，2Nが36.8%，MTが31.6%，RTが34.5%，MEが24.1%，CWが33.6%で，全学科が40%以下であったが，MEが30%以下なのが目立った．否定的な回答は，1Nが28.1%，2Nが29.7%，MTが26.9%，RTが24.9%，MEが37.0%，CWが18.5%であった．

質問事項B．「学習の仕方を身につけるため」

各学科の肯定的な回答は，1Nが28.2%，2Nが47.3%，MTが31.7%，RTが30.7%，MEが38.6%，CWが38.3%で，ほとんどの科が30%前後であった．この中で2Nがやや高いのが目立った．否定的な回答は，1Nが20.5%，2Nが26.3%，MTが25.3%，RTが24.9%，MEが25.7%，CWが18.5%であった．

質問事項C．「合理的な考え方ができるようになるため」

各学科の肯定的な回答は，1Nが22.8%，2Nが35%，MTが36.4%，RTが34.5%，MEが28.9%，ほとんどの学科が30%前後であったが，CWはやや低く18.5%であった．否定的な回答は，1Nが33.6%，2Nが22.7%，MTが33.2%，RTが19.2%，MEが22.5%，CWが31.3%であった．

質問事項D．「いろいろな面から，物事が考えられるようになるため」

各学科の肯定的な回答は，1Nが64.0%，MTが53.9%，RTが57.6%，MEが61.2%，CWが52.2%で，ほとんどの科が60%前後であったが，2Nは73.6%であった．否定的な回答は，1Nが11.9%，2Nが1.7%，MTが17.3%，RTが5.7%，MEが6.4%，CWが10.3%であった．

質問事項E．「勉強しないと，筋道だった考え方ができなくなるから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが17.3%，2Nが17.5%，MTが12.6%，RTが15.3%，MEが11.2%，CWが16.2%で，全学科が10%台であった．否定的な回答は，1Nが48.8%，2Nが43.8%，MTが57.1%，RTが36.5%，MEが56.4%，CWが58.0%であった．

質問事項F．「勉強しないと，頭の働きがおとろえてしまうから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが30.4%，2Nが24.5%，MTが30.1%，RTが28.8%，MEが24.1%，CWが26.6%で，全学科が20～30%の範囲であった．否定的な回答は，1Nが35.8%，2Nが31.5%，MTが44.3%，RTが34.5%，MEが35.4%，CWが37.1%であった．

4）報酬志向（図4）

質問事項A．「成績が良ければ，こづかいやごほうびがもらえるから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが4.2%，2Nが5.2%，MTが6.2%，RTが0%，MEが4.8%，CWが8.1%で，全学科が10%以下であった．否定的な回答は，1Nが81.4%，2Nが85.8%，MTが85.6%，RTが80.6%，MEが82.2%，CWが69.4%であった．

質問事項B．「テストの成績がいいと，親や先生にほめてもらえるから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが27.1%，2Nが29.7%，MTが17.3%，RTが11.5%，MEが11.2%，CWが20.8%で，全学科が30%以下であったが，中でもMT，RT，MEはやや低いのが目立った．否定的な回答は，1Nが46.7%，2Nが57.8%，MTが55.5%，RTが61.5%，MEが64.4%，CWが45.3%であった．

質問事項C．「学歴があれば，大人になって経済的にも良い生活ができるから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが58.6%，2Nが47.2%，MTが53.9%，RTが38.3%，MEが48.3%，CWが41.8%で，1NとMT以外の学科は30～40%台であった．否定的な回答は，1Nが14.1%，2Nが19.2%，MTが20.5%，RTが21.0%，MEが24.1%，CWが25.5%であった．

質問事項D．「学歴がいいほうが，社会に出て得なことが多いと思うから」

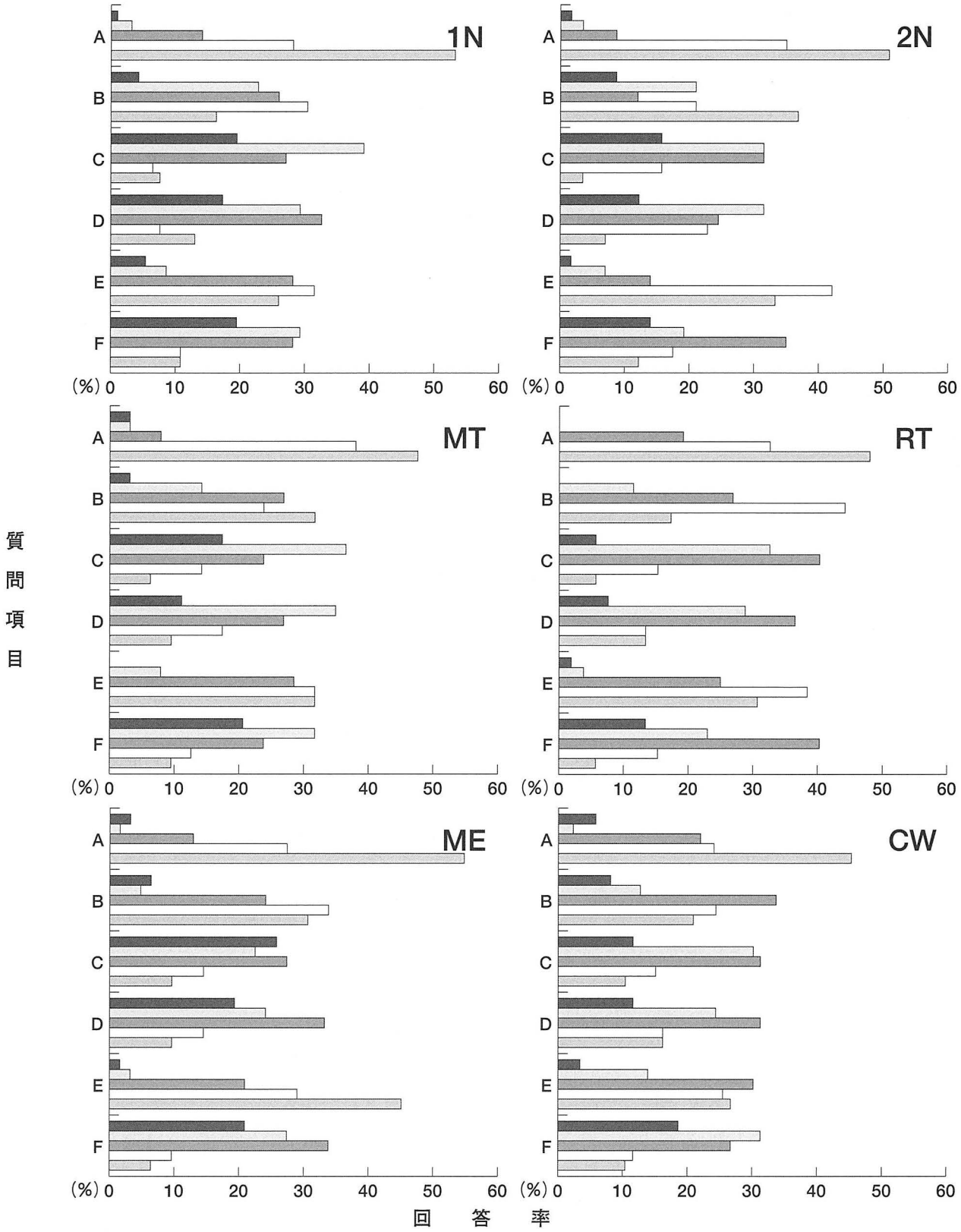
各学科の肯定的な回答は，1Nが46.6%，2Nが43.7%，MTが46%，RTが36.4%，MEが43.4%，CWが36%で，全学科が30～40%台であった．否定的な回答は，1Nが20.6%，2Nが29.8%，MTが26.9%，RTが26.8%，MEが24.1%，CWが32.4%であった．

質問事項E．「勉強しないと親や先生にしかられるから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが14%，2Nが8.7%，MTが7.9%，RTが5.7%，MEが4.8%，CWが17.3%で，全学科が10%前後であったが，CWはやや高いのが目立った．否定的な回答は，1Nが57.5%，2Nが75.4%，MTが63.4%，RTが69.1%，MEが74.1%，CWが52.2%であった．

質問事項F．「学歴が良くないと，大人になっていい仕事先がないから」

各学科の肯定的な回答は，1Nが48.8%，2Nが33.2%，MTが52.3%，RTが36.4%，MEが48.3%，CWが49.9%で，2N，RT以外の学科は50%前後であっ



〈質問項目〉A 「成績が良ければ，こづかいやごほうびがもらえるから」，B 「テストの成績がいいと，親や先生にほめてもらえるから」，C 「学歴があれば，大人になって経済的にも良い生活ができるから」，D 「学歴がいいほうが，社会に出て得なことが多いと思うから」，E 「勉強しないと親や先生にしかられるから」，F 「学歴が良くないと，大人になっていい仕事先がないから」.
〈回答の選択肢〉よく当てはまる■，当てはまる□，どちらともいえない■，当てはまらない□，まったく当てはまらない□.

図4　各学科における報酬志向に関する調査結果

た．否定的な回答は，１Ｎが21.6％，２Ｎが29.7％，MT が22.1％，RT が21.0％，ME が16.0％，CW が22.0％であった．

５）自尊志向（図５）

質問事項Ａ．「成績がいいと，他人より優れているような気持ちになれるから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが26％，２Ｎが35％，MT が30％，RT が21.1％，ME が28.9％，CW が23.2％で，ほとんどの学科が20～30％台であった．否定的な回答は，１Ｎが38.0％，２Ｎが29.7％，MT が36.4％，RT が28.8％，ME が41.9％，CW が46.4％であった．

質問事項Ｂ．「成績が良ければ，仲間から尊敬されると思うから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが17.3％，２Ｎが12.2％，MT が18.9％，RT が9.6％，ME が８％，CW が15.1で，全学科が20％以下であった．否定的な回答は，１Ｎが60.7％，２Ｎが63.1％，MT が57.0％，RT が59.5％，ME が74.1％，CW が67.4％であった．

質問事項Ｃ．「ライバルに負けたくないから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが34.7％，２Ｎが33.2％，MT が36.4％，ME が37％であるのに比べて RT，CW はそれぞれ17.2％，19.6％と低かった．否定的な回答は，１Ｎが35.8％，２Ｎが35.0％，MT が45.9％，RT が52.2％，ME が45.1％，CW が54.6％であった．

質問事項Ｄ．「勉強して良い学校を出たほうが，立派な人だと思われるから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが22.7％，２Ｎが29.7％，MT が23.7％，RT が17.3％，ME が19.3％，CW が22％で，全学科が30％以下であった．否定的な回答は，１Ｎが41.3％，２Ｎが36.7％，MT が47.5％，RT が46.1％，ME が56.4％，CW が49.9％であった．

質問事項Ｅ．「勉強が人並みにできないのはくやしいから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが59.6％，２Ｎが54.3％，MT が52.3％，RT が57.6％というように３学科では50％以上であったが，ME，CW はやや低く，それぞれ45.1％，39.5％であった．否定的な回答は，１Ｎが12.9％，２Ｎが19.2％，MT が23.7％，RT が24.9％，ME が19.2％，CW が35.9％であった．

質問事項Ｆ．「勉強が人並みにできないと，自信がなくなってしまうから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが47.7％，２Ｎが47.3％，MT が44.4％，RT が28.8％，ME が33.7％，CW が31.3％で，ほとんどの学科が30～40％台であったが，RT，CW はやや低いのが目立った．否定的な回答は，１Ｎが27.0％，２Ｎが24.5％，MT が31.6％，RT が30.7％，ME が25.7％，CW が30.1％であった．

６）関係志向（図６）

質問事項Ａ．「みんながやるから，なんとなく当たり前と思って」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが27.1％，２Ｎが17.5％，MT が18.9％，RT が11.5％，ME が25.7％，CW が27.8％で，全学科が30％以下であった．否定的な回答は，１Ｎが38.0％，２Ｎが56.0％，MT が52.3％，RT が42.3％，ME が46.6％，CW が39.4％であった．

質問事項Ｂ．「友達といっしょに何かしていたいから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが16.2％，２Ｎが12.2％，MT が12.6％，RT が13.4％，ME が16％であったが，CW はやや31.3％と高かった．否定的な回答は，１Ｎが55.3％，２Ｎが50.8％，MT が49.1％，RT が44.1％，ME が53.2％，CW が37.1％であった．

質問事項Ｃ．「親や好きな先生に認めてもらいたいから」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが28.2％，２Ｎが24.5％，MT が26.9％，RT が7.6％，ME が12.8％，CW が19.7％で，RT は7.6％と低かった．否定的な回答は，１Ｎが44.4％，２Ｎが43.8％，MT が49.1％，RT が57.6％，ME が64.4％，CW が46.5％であった．

質問事項Ｄ．「周りの人たちが良く勉強するので，それにつられて」

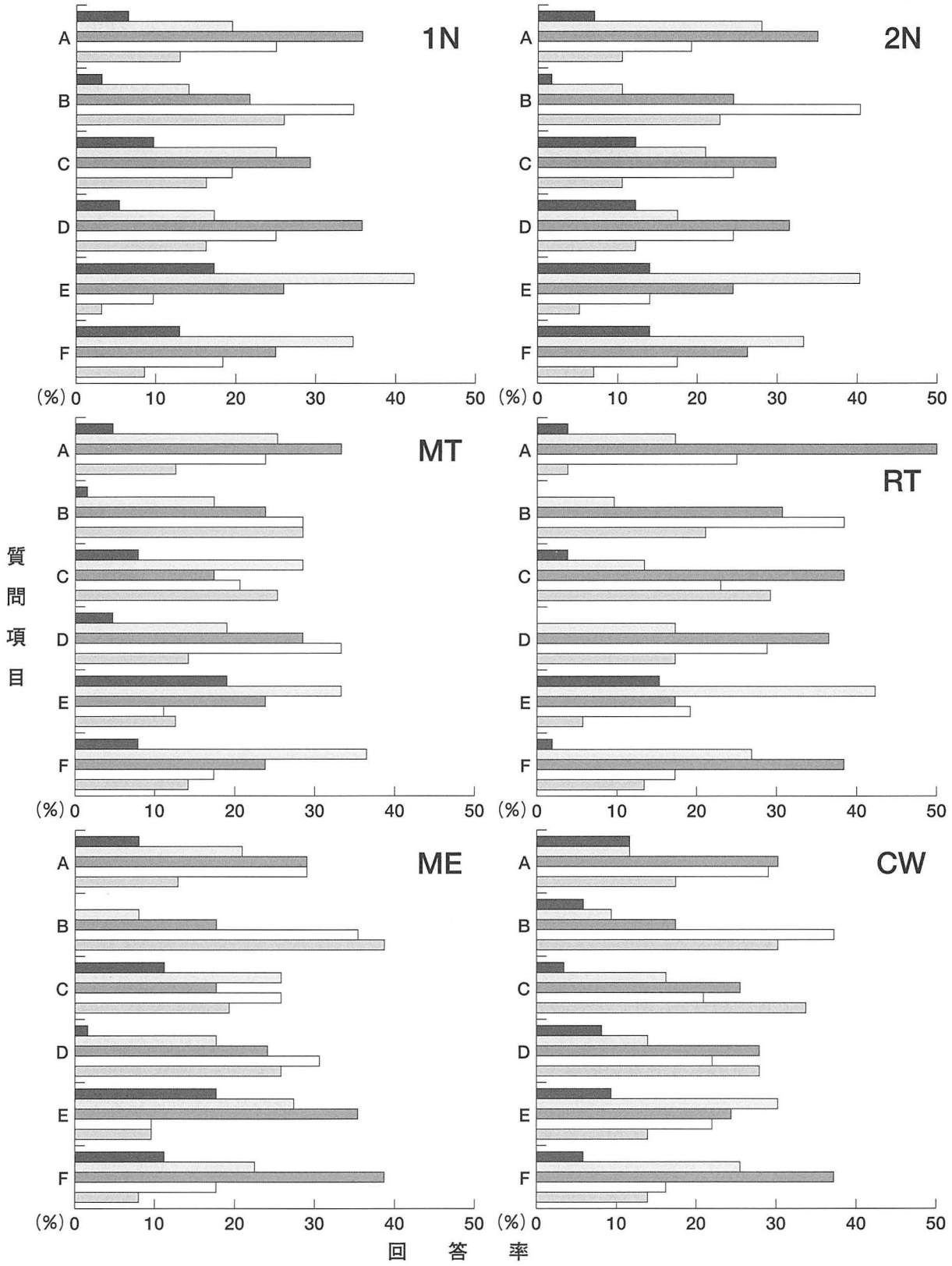
各学科の肯定的な回答は，１Ｎが16.2％，２Ｎが10.4％，MT が9.4％，RT が9.6％，ME が16％，CW が10.4％で，全学科が20％以下であった．否定的な回答は，１Ｎが51.0％，２Ｎが47.3％，MT が66.6％，RT が59.5％，ME が53.2％，CW が66.2％であった．

質問事項Ｅ．「みんながすることをやらないと，おかしいような気がして」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが15.1％，２Ｎが8.7％，MT が11％，RT が11.5％，ME が9.6％，CW が12.7％で，全学科が20％以下であった．否定的な回答は，１Ｎが51.0％，２Ｎが57.8％，MT が74.5％，RT が55.6％，ME が62.8％，CW が52.2％であった．

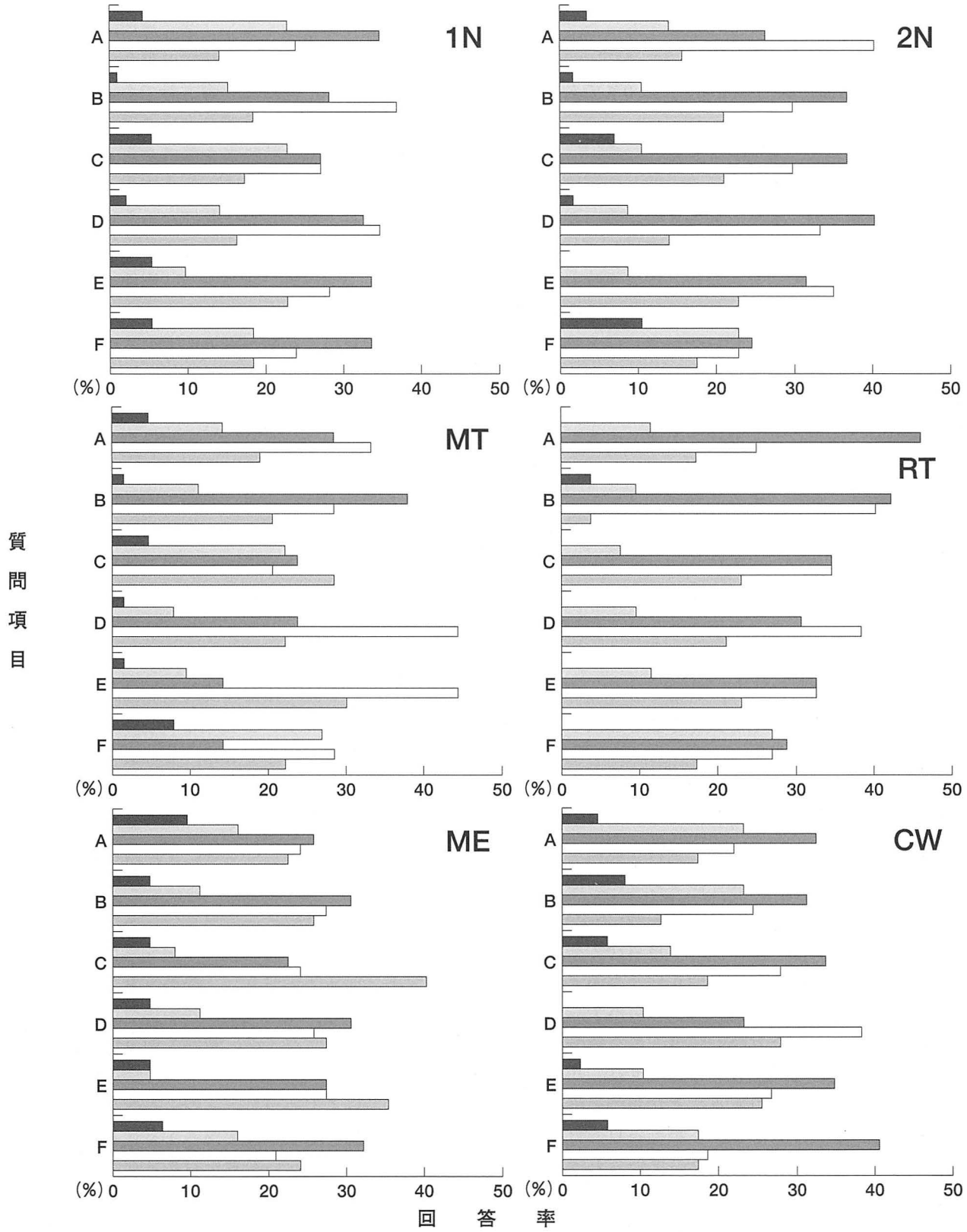
質問事項Ｆ．「勉強しないと親や先生に悪いような気がして」

各学科の肯定的な回答は，１Ｎが23.8％，２Ｎが33.3



〈質問項目〉A 「成績がいいと，他人より優れているような気持ちになれるから」，B 「成績が良ければ，仲間から尊敬されると思うから」，C 「ライバルに負けたくないから」，D 「勉強して良い学校を出たほうが，立派な人だと思われるから」，E 「勉強が人並みにできないのはくやしいから」，F 「勉強が人並みにできないと，自信がなくなってしまうから」.
〈回答の選択肢〉よく当てはまる■，当てはまる□，どちらともいえない■，当てはまらない□，まったく当てはまらない□.

図5　各学科における自尊志向に関する調査結果



〈質問項目〉A 「みんながやるから，なんとなく当たり前と思って」，B 「友達といっしょに何かしていたいから」，C 「親や好きな先生に認めてもらいたいから」，D 「周りの人たちが良く勉強するので，それにつられて」，E 「みんながすることをやらないと，おかしいような気がして」，F 「勉強しないと親や先生に悪いような気がして」.
〈回答の選択肢〉よく当てはまる■，当てはまる□，どちらともいえない■，当てはまらない□，まったく当てはまらない□.

図6 各学科における関係志向に関する調査結果

%，MTが34.8%，RTが26.9%，MEが22.4%，CWが23.2%で，全学科ともに30%前後であった．否定的な回答は，1Nが42.3%，2Nが40.3%，MTが50.7%，RTが44.2%，MEが45.0%，CWが36.0%であった．

4．考　　察

一般に，学習をする上では，内容関与的動機である実用志向，充実志向，訓練志向の3つが高いことが望ましい．この動機では，学習内容を重視して，それを身につけたいという願望から学習の仕方や質も深まってくるものと考える．純粋に学問を捉え，自然な人間らしさと夢を追う者は，学習自体が楽しいと感じる充実志向を，学習動機の第一に置きたいと考え，実際にそれを重視している．とはいえ，自尊志向，報酬志向，関係志向などの内容分離的動機を不要とするものではない．現実には，報酬志向が際立つことも大いにありうることである．また，自尊志向であるプライドや競争心が，エネルギーとなって学習に勢いがつくこと，関係志向である学生間や学生教師間の関係が，学習を促進する要因になることなど，その用い方で効用は大きく変わると考えられる．重要なことは，教師側が，学生の学習動機に関する志向性と，その多様性を理解し，学生の学習意欲を喚起し，持続させるために，さまざまな角度から学習課題と指導方法を工夫する必要があるということである．

内容関与的動機のなかで特徴的なのは，実用志向が全体平均で3.88と高く，学習を仕事や生活に生かすことができるという気持ちが，強い学習意欲につながっていることである．次いで高い値であったのは充実志向の3.45で，最も低かったのは訓練志向の3.03であった．充実志向がやや高いことは，学習自体が楽しいと感じ，いろいろなことを知りたいという意欲をあげていることなので，目的意識の高い学生が入学していることが推察できる．内容分離的動機である報酬志向，自尊志向，関係志向の全学平均は，それぞれ2.70，2.80，2.50であった．これは学習することが報酬を得る手段として考える入学生は少なく，しかも各自の行動はプライドや競争心がエネルギーとなっているわけではないことを示唆している．また，この結果は，それぞれが専門職を目指そうという目的意識のもとで行動しているので，他者につられて行動することが少ないことを意味している．このような傾向は，一般的に他大学（短大）でも見られるものか否かは，同様な調査の公表がほとんどなく不明である．

内容関与的動機，とりわけ実用志向が強いのは，「人をつくる」，「体をつくる」，「深い専門的知識・技能を身につける」という本学の建学の理念に合致する好ましい傾向であり，同時に教育方針である「進んで学ぶ精神を養う」，「優秀な技能を身につけさせる」，「人間性豊かな医療・福祉技術者を養成する」，「健康な心身とたくましい活動力のある人物を育成する」に沿ったもので，教育上配慮しなければならない重要なことである．

市川[2]は，実用志向，充実志向，訓練志向には相関があり（相関係数0.5—0.6），自尊志向，報酬志向，関係志向にもお互いに相関があると述べている（相関係数0.5—0.6）．また実用志向，充実志向，訓練志向と自尊志向，報酬志向，関係志向にはほとんど相関はないとしている．今回の調査では，相関係数を算出していないが，実用志向，充実志向，訓練志向には互いにやや相関がみられ，自尊志向，報酬志向，関係志向には，ほとんどないことが暗示される．

「実用志向」では，ほぼすべての項目について70%以上の高い肯定的な回答があり，入学後の学習を仕事や生活に生かすことができるという学習動機が強いことを示している．具体的には，知識や技能を使う喜びを味わいたいという非常に前向きな回答や，学んだことを将来の仕事に生かしたいというはっきりした目標を持った人が多いことである．このように，目的，目標を持って物事に臨むことは，何事においても効率や効果を上げるうえで大切なことである．

「充実志向」が高いことは，学習自体が楽しいと感じていることである．本調査では，多彩な知識を身につけた専門職を目指して学習したいと考える新入生が約80%みられた．さらに新しいことを知りたい，何かできるようになりたいという意欲をもった新入生もかなり見られたことは，彼らの職業に対する意識の高さを示している．一方では，勉強そのものが面白いと感じる人は少なく，勉強しないと充実感がないと思う新入生は20%以下であった．このことから双方向で主体性のある学生参加型教育を導入するなど，固定観念にとらわれることのない教育を目指さなければならないであろう．

「訓練志向」が高いことは，知力を鍛えることに重きを置くという考えであるが，6項目の中で，「学習は色々な面から物事を考えられるようになるため」という1項目だけが高かった．「学習の仕方を身につけること」や，「筋道だった考え方ができるようになるため」

と考えた新入生は30％と少なく，学習が考え方の訓練としてや頭の訓練になるという考えはほとんどなかった．

「報酬志向」では，「成績やテストの成績がいいとほうびやほめてもらえる」などの動機は少なかった．「学歴がいいと経済的に恵まれ，社会に出て得なことが多い，良い職場が見つかりやすい」などはやや高かった．

「自尊志向」が高いことは，学習行動はプライドや競争心がエネルギーとなっていることを表しており，学習する上である程度必要な志向の一つと考えられる．「成績が良いと優越感をもてるから」，「尊敬されるから」，「立派な人だと思われるから」などについては，ほとんどの学科が30％以下と否定的であった．本調査では，「勉強が人並みにできないのは悔しいから」という質問にほとんどの学科の新入生が約50％肯定的な回答をしていた．

「関係志向」が高いことは，他者につられて行動する傾向があることを意味しており，本調査ではほとんどの学科が30％以下であった．「学習をみんながやるから」，「友人と一緒にしたいから」など主体性のない学習を肯定する新入生は30％以下であり，大半の新入生がしっかりした自己意識を持って学習に臨んでいることが明らかになった．

市川[3]は，学習動機に応じた指導方法を示している．これを一つの参考にして，本学で適用できる独自の方法を考える必要があろう．本調査で明らかになったことは，学生は学習動機として最も実用志向を重視していることである．この志向の特性は，勉強は自分の将来の仕事や生活に生かせるからやろうという考え方であるから，当然受講する教育内容は役に立つものでなければならないし，またそれを学生は求めている．したがって，学習したことが将来の職業や生活でどのように生かされているかを明らかになるような教育計画を立てることが重要である．また，本人にとって興味のわく課題を追求する過程で，他の課題についても学習の必要感が高まるような配慮をする必要があろう．

一方，本調査では，充実志向を重視する学生が多いことも明らかにされた．充実志向は，学習することに興味を持っているのであるから，大学としては充実した内容の教育を提供し，学生が充実感を味わえるものでなくてはならない．したがって，学習者が面白がって，自ら進んで取り組めるような課題を用意することが必要であり，自分自身の知識や技能の向上が実感できるような課題設定や，評価方法を考えることが，より教育効果を促進することになるであろう．また学生には，訓練志向を重視するという傾向もみられたことから，知識や技能は，それを得る過程でさまざまな力がつくことを理解させ，ある学習がほかの学習に影響を与えるという，学習の転移が起こるような状況を設定し，学び方の学習がほかの場面でも応用できることを実例で示すことが大切である．

調査したなかで志向としてはやや低かったが，関係志向，自尊志向，報酬志向などの内容分離的動機を重視する学生もいることから，その対応も忘れてはならない．関係志向を重視する場合は，教師との人間関係や学生同士の人間関係に注意を払い，楽しく和やかな環境作りを進めることが大切である．そのためには，学習だけでなく，クラブ活動，コンパ，種々の行事，学外研修など遊びや食事などを通じて，全人的な付き合いを重視することである．自尊志向を重視する場合は，優れた点を積極的にほめて自信を持たせ，他者との競争意識をかきたてることも一つである．たとえば，好成績の学習者には，成績を公表したり，表彰したりして，多くの人から認められる場面を作ることも必要である．報酬志向を重視する場合には，直接的な報酬と罰でなくても，賞賛や叱責で動機付けることも一つの方法であろう．

5．謝　　辞

本調査にご協力いただいた平成15年度入学生の皆さんに深く感謝いたします．また調査の円滑な実施に全面的にご協力いただいた各学科の担任をはじめ専任の先生方に心より感謝いたします．さらに膨大な量の調査結果の事務処理に関して，年度始めの多忙ななか厳重なチェックをしていただいた事務部教務課の方々，また調査結果のデータ処理について貴重な助言をいただいた一般教養の小林早苗先生に深謝いたします．

6．文　　献

1）下田健治，名木田恵理子，中西啓子，村中　明，内山克良，山口恒夫：入学前の学習状況等に関する調査，川崎医療短期大学紀要　23：1―8，2003ａ．
2）市川伸一：現代心理学入門３「学習と教育の心理学」，東京：岩波書店，pp. 1―34，1995.
3）市川伸一（編著）：「認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導」，東京：ブレーン出版，pp. 186―203，1998.
4）市川伸一：「学ぶ意欲の心理学」，東京：PHP 研究所，pp. 58―61，2001.